

交換・派遣留学帰国報告書（担当者作成）

※本人からの提出がなかったため、設問を変更し、他提出物などから文言を抜粋したものを派遣担当者が作成しております。

学部・学科：建築学部・建築学科

留学先国名：フランス

留学先大学：パリ・ラ・ヴィレット建築大学

留学期間：2021 年 8 月～2022 年 7 月

学年（出発時）：4 年生

1. 授業について

対話を重視するグループワークの Plastic Art(芸術文化についてディスカッションしたり、創作したりする授業)では、日本の芸術について問われ、日本の芸術と建築についてプレゼンした。

Projet(スタジオ)の課題は毎週かなりの量が課される。課題内容は、集合住宅の設計で初回は、既存の集合住宅の一部屋あたりの大きさ、社会に与える影響、配置計画などを 1 人につき 1 つの建築の分析を行う。分析したプレゼンシートを教室に貼り 9 時から 5 時 30 分まで全員のプレゼンを行い、教授 3 人が質問をし、議論を深めるやり方で授業を進める。特に現地の学生はユニテ・ダビタシオンを分析している学生が多く、「輝く都市」から引用しコルビュジエの考え方を発表していたプレゼンも見受けられた。

2. 生活環境について

<9 月の生活費（参考）>

生活費:娯楽 50€（美術館の入場費用等）＋食費 200€（調味料や調理器具など含む）

交際費:50€ 交通費:350€（学生パリ内乗り放題のパス：imagineR を購入）家賃:500€

<休日の過ごし方>

パリでの休日の過ごし方は、美術館のあとカフェで過ごすことが多い。学生証があれば、大体の美術館は、無料または半額なので、在学中に出来るだけ訪れている。そのあと友達と美術館の振り返りをして意見交換、デッサンをカフェで行っている。

3. 留学の成果について

・留学に行く前、自分は建築の知識は専攻する中で身につけていっていたが、建築の分野の中で何が好きで何が嫌いかわからなかった。しかし、こちらでたくさんの建築にふれることや、議論することで、自分は何が好きで何が嫌いかわかるようになった。

・毎日必ずフランス語に触れる取り組みをしている成果か、フランス語は日常会話レベルまで上達したが、学術的な授業を聞き取るのはかなり厳しいと感じる。